



盛り上がる!

『くれよん』『エイブル』『サポ
ートセンターわかば』の3施設は、
この若葉2丁目で今年初めての夏
を迎えました。私たちは、この新
しい地で、ここに住んでおられる
地域の皆様と共に夏を過ごした
い・・・地域の子供たちといっし
よに夏の思い出づくりが出来ない
だろうかと考えてきました。そし
て、この夏の企画として「8・20
わかば夏まつり」を実施すること
が出来ました。開催に際しまして
は、若葉町会・若葉交友会のご協
力によりポスター貼り・回覧・毎
戸配付等の宣伝をしていただきま
した。

当日は、日中の、通り雨が涼し
さを呼び、夕方からは心地よい風
が会場内に流れていました。蒼い
空に三発の花火が鳴り響き、いよ
いよオープニングです。

焼きそば・焼き鳥・フランクフ
ルト・原宿ドック・アイスクリー
ムなど10の模擬店と、ゲームでは、
輪投げ・回転式ダーツ・ピンボ
ール・スイカ割りが大変な人気があ
り、舞台上で行われたビンゴ大会
など、町内外の小中学生が列をつ
くって並んでいました。

イベントは、よさこいソーラン
の『極楽ほんず』を招いて力強い
踊りを披露しました。また、曲と
曲の間には、男性演技者が巨大な
旗をふる「旗振り」が行われ、息
が切れるほどの激しい運動と掛け
声が会場内にいる方々を奮立た
せました。

また協賛として、『マルエス主
婦の店』『葉店』様より、スイカ
や菓子提供をいただき、特売青
空市場では、格安の野菜・果物が
好評でした。

これからも地域発展のために、
微力ですが、より一層の努力をし
てまいりますので、よろしくお願
い致します。



特集「自己啓発」

研修体系においては、自己啓発、職場研修、職場外研修が三本柱といわれており、これらの効果的な連携によって個々の職員の総合的な能力開発となります。「自己啓発」は、一人ひとりが自身の研修ニーズの認識と目標を持ち、意思を持って学習する事です。特に専門性の高い職場においては、実質のサービスタウンには、大いなる要素として、深い知識や高い技能が必要とされますが、それを具体化する為に資格取得があります。

介護福祉士は介護業務に携わる者の資格であり、社会福祉士は福祉に関する相談、援助業務を行う資格です。介護支援専門員は、介護保険制度において介護を必要とする高齢者支援業務に必要な資格であり、その他精神障害福祉士、社会福祉主事、管理栄養士、ヘルパー2級等々、これらは仕事をしながら努力次第で取得可能です。

また、それを生かす為にも、豊かな人間性に基づいた倫理観が要求されますが、日々の切磋琢磨が必要です。

今回の特集は「自己啓発」に焦点をあて①資格取得に向け努力している職員②今働いている職員の主張とし職員の生の声を紹介します。

**自身の
ステップアップを
目指して！**

身体障害者
授産施設

旭光園

私は、旭光園で働き始めて3年目です。仕事にも慣れてきて福祉について、もっと理解したいと思っていた今年、社会福祉主事の資格取得のチャンスももらいました。机に向かっていたの勉強は、学校を卒業して以来の事です。仕事をしながらという事もあり、なかなか勉強が追いつきません。2ヵ月ごとの課題提出の締め切りにも追われています。しかし、そんな時の励みになるのが、同じ目標をもった人達の存在です。6月のスクーリングで知り合えた人達とは今でも情報交換をし、お互いに励ましかつた時は、職場の先輩が頼りです。同じ苦勞をしてきた人ばかりで親身になってくれます。

この通信教育は、あと残り半分です。自分の知識が増え、支えてくれる人達がいて、とても素晴らしい環境です。あと半年頑張り念願の主事資格取得を果たします。そしてその後は介護福祉士、社会福祉士、ケアマネージャー等の資格も取得し、より良いサービスタウンを提供できるようになりたいです。

(生活支援員 古川睦子)

**目指せ
社会福祉士**

知的障害者
更生施設

拓光園

拓光園では9名の職員が社会福祉士の資格を取得しています。合格率約30パーセントというその難関に今年新たに挑もうとする2人。その心構えを尋ねてみました。

生活支援員の斉藤さんは園に勤務して10年目になります。2年前から、資格取得のための通信教育を始め、レポートの提出やスクーリングもこなしてきました。

「仕事をしながらの通信教育はとても大変で何度もくじけそうになりました。特にレポート提出の締め切りが迫ってくるとあせってばかりいました。難しい試験だとは思いますが、一発で合格して、取得した資格を利用者の方々の支援に生かして行きたいと思っています。」と意欲を見せていました。



また、当園勤務3年目の生活支援員佐藤さんは、次のように話してくれました。「私は、社会福祉系の学校で学んできたわけではないので、福祉の根本を勉強し

たいと思つてこの資格を目指すことを決めました。スクーリングで多くの人と知り合えたことがとても収穫になりました。」

当園ではこの2人を含め約10名の職員が、来年1月の試験を目指して猛勉強を始めています。福祉サービスタウンの専門性を高めるため、これからも資格取得に向けて取り組んで行きたいと思えます。

自分自身と向き合って

身体障害者療護施設

山郷館

山郷館で働き始め、半年になります。すでに理想と現実の差に悩んでいます。

学生の頃は、障がいの特性や心理について「もっと知りたい」という気持ちをとて強く持つていましたし、働いてからも日々成長していきける職員になりたいと思つていました。しかし最近では、ただ日々の業務をこなしていくだけで「もっと知りたい」という気持ちや「自分を成長させよう」という意識がとて弱くなつてしまつたように感じています。それは自分の気持ちの甘えがでていることに気づきました。

私達がしている介護の仕事は、毎日が同じことの繰り返しなのかもしれません。しかしその中で「なぜ？」という疑問やそれについて「知りたい」という気持ちを持ち続けることにより、自分の仕事に対する意識や見方が変わつてくるのだと思います。またそれにより利用者の生活をより良いものにしていけるはずで。

だから私は、「知りたい」という気持ちを持ち続けていきたいです。

(介護職員 中山陽子)

今、思う事！

特別養護老人ホーム

サアツルホーム

サンアツプルホーム、17年度採用の新任介護職員が職務経験の中から得た「今、思う事」を聞いてみました。

● 情緒不安定の方に、何て声を掛ければいいのか考える事が先になり傾聴する事に欠けていました。先輩方の接し方から励みの言葉ではなく傾聴し共感する事が大切だと気付きました。

(館浦里実)

● 利用者の皆様から求められる事を真に受け止め職員同士の連携をしつかりと築いていける1つの歯車になりたいです。

(成田和登)

● 身体的ハードさと責任の重さを知りました。少しずつ仕事にも慣れ、厳しいと思う反面、楽しいと思う事も増えてきました。

(松山景子)

● 身体的ケアだけではなく、精神的ケア、人と人の関わりが大切であると改めて感じる事が出来ました。

(長内鮎美)

● 心より満足していた、ただけるサービスをする事、これは決して手

抜きや省略してはならない事と
思います。(阿保志乃)
● 机上で学ぶ事と実際に現場で学

ぶ事には大きな違いが存在する
と思えます。今は学ぶ時と考え
ます。(葛西智実)



揺らぐ心、揺るぎない思い

知的障害者通動寮

拓心館

衆議院選挙が終わり、いったんは廃案になった『障害者自立支援法』も近い将来に成立するでしょう・・・。そんな改革の大きなうねりの中で、障がいを持つ方々は生活し続けています。

その中で、拓心館の生活支援員として勤めて間もない私もまた、さまざまな意味で心の揺らぎを感じています。「拓心館の将来は？」かかわる皆さんの暮らしは？そして私自身の役割は？」挙げればキリがない程に。

生活支援の大目標が「自分の人生に希望を持って生き続けられること」とするならば、日々の業務の中で利用者の皆さんとどのようなかわればいいのか、どのような自分で決定や主体性の尊重といいながら、ついあれこれ余計な口出しをしてはいないか、見守るべき物事にも手出しをしてはいないか、こ

れでよかつたのだろうか、と揺らぎ放題の毎日です。

以前の自分は、「揺らぐ」「わからない」「曖昧」といった状況は、自らの未熟さそのものであり、それらを打ちけすためには経験と豊富な知識・技術が必要と考えていました。しかし最近では「揺らぎ」こそが人間らしさなのではないかと思えるようになりました。

利用者の皆さんもまた、揺らいでいます。日々の暮らしや見えづらいつつ、思いを受け止めつつ、共に揺らぎながらも皆さんの持つ力を信じてかかわっていきたく。制度が変わるとしても、日々の暮らしが途切れることではないのだから・・・。そんなことを考える昨今です。

(生活支援員 成田)



いわせてネット

今回の「いわせてネット」は、『特別養護老人ホームサンアップルホーム』と十数年交流のある『高杉保育園』の保育士さんからです。高杉保育園は、幼児教育の一環として和太鼓演奏に取り組み、サンアップルホームには、春と冬の2回の慰問の他に、夏の大納涼祭では、毎年オーブニングセレモニーを飾ってくれます。地域の皆さまにも広く浸透している納涼祭にあつて、高杉保育園の園児の皆さんの雄姿は、なくてはならない存在となっています。

お年寄りとの交流で子供達に思う事

核家族が増え、普段お年寄りとお話す機会の少ない子供達が、訪問して戸惑う事があります。それは、園児の姿を目にしただけで、ハンカチを目に当て「めごいじゃ」とニコニコ笑顔で声をかけてくれる事です。お爺さん、お婆さんの涙につられて泣く子供の姿も見られます。中には何で泣いているのか不思議に思う子供もいるようです。かわいくて、うれしくて、感

動して泣くこともあると説明すると子供なりに頑張ろうと思ひ元気に踊ったり、太鼓をたたいたりしてくれます。訪問することにより色々なお年寄りがいる事、自分達が何かをする事で喜んでくれる事を知り、やさしい気持ちや人を思いやるという気持ちが育つのではないのでしょうか。良い経験になると思います。

これも、こういって機会をたたくさん作っていきたいと思つています。



和太鼓は、年長さんが中心となり演奏しているそうです。毎年の慰問ですが、当然ながら毎年違う子供さんが来てくださいます。園長先生はじめ保育士の皆さんの指導力に脱帽しますとともに、これから、かわいらしい訪問をお待ちしています。

サンアップルホーム

七峰会後援会コーナー

施設見学会のお知らせ

平成17年9月8日弘前文化センター会議室に於いて役員会を開催し、今年、弘前市若葉二丁目にオープンした『山郷館児童・障害者デイサービスセンターくれよん』『エイブル(知的障害者デイサービスセンター)』『サポートセンターわかば(認知症高齢者グループホーム)』『高齡者デイサービスセンター』(サンアップルヘルパー出張所)の見学会を左記の通り計画いたしました。これらの施設は、住宅地の中にありながらも岩木山、八甲田連峰等、津軽一円が見渡せる素晴らしい眺望と落ち着いた佇まいが特徴です。会員の皆様には御近所、お友達他お誘い合わせの上ご参加下さればと思います。

記

日時 平成17年11月9日(水)

時間 14:00~16:00

移動方法 専用バスにて送迎いたします。

集合場所 弘前駅13:20、桜大通り13:30、弘前市役所13:35、若葉13:45

尚、自家用車の場合は13:45まで直接施設へお願いします。*お帰りは、若葉発16:00逆コースで送迎いたします。

参加費 一人500円(バス代、交流会費含む)

申し込み 七峰会本部事務局 33-8861

<p>総合支援</p> <p>弘前市委託事業 身体障害者相談支援事業 弘前市障害者生活支援センター TEL 31-2400 青森県指定 津軽障害者就業・生活支援センター TEL 82-4520</p>	<p>知的障害者援護</p> <p>拓心館 TEL 82-4520 知的障害者グループホーム(9か所)生活自立訓練事業 地域生活支援センター デイサービスセンターエイブル TEL 96-2331 通所利用事業 拓光園短期入所支援センター 拓光園障害児短期入所支援センター 知的障害者グループホーム(2ヶ所)</p>	<p>身体障害者援護</p> <p>旭山郷館 TEL 97-2211 身体障害者(児)短期入所事業 山郷館デイサービスセンター 山郷館デイサービスセンター弘前 山郷館デイサービスセンターくれよん 山郷館訪問介護センター 山郷館訪問介護センター黒石 光園 TEL 57-5155 通所相互利用事業 旭光園身体障害者短期入所事業 身体障害者福祉ホーム さわら</p>	<p>特別養護老人ホーム</p> <p>弘前市委託事業 サンアップル在宅介護支援センター TEL 97-2131 サンアップルホーム わかば TEL 37-1165 グループホームわかば デイサービスセンターわかば 弘前市大字若葉2丁目15 サポートセンターわかば (認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>介護事業</p> <p>山郷館居宅介護支援センター TEL 97-2941 サンアップル居宅介護支援センター TEL 97-2131</p>
---	--	--	--	--